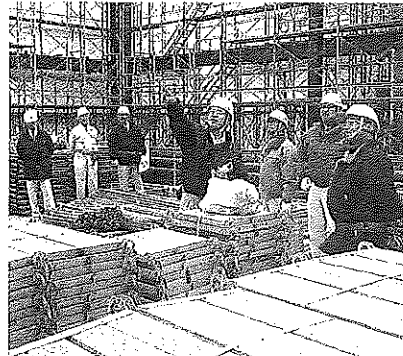


札建協が現場見学会を開催

## 安全管理への理解深める

### 小学校改築の現場を訪問



中央区の小学校改築工事現場を訪れ、施工状況を視察することも

に、安全管理体制について理解を深めた。

現場見学会は参加者の技術力向上や施工の工夫・改善に役立つことを目的に毎年実施しているもの。今回の対象現場は札幌市都市局発注の「二条小改築ほか」(伊藤・岩倉特定JV)の一現場。

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は二十七日、建築委員会(阿部芳昭委員長)と労務委員会(野村幹夫委員長)の合同現場見学会を開催した。写真。会員企業の技術職員三十人が参加。札幌市内中

はじめに、現場代理人を務める川口哲司氏が工事の

概要や今後の施工スケジュールなどを説明。建築規模は、校舎棟RC造一部SRC造四階三、〇九七・四平方メートル、屋内運動場棟SRC造二階一、一六四平方メートルで、工期は二十九年三月までを予定している。

このあと、参加者は屋内運動場の作業現場を見学し、落下防止ネットや足場づくりなどを確認した。川口氏は、安全管理体制のほか、女性職員が働きやすい現場づくり、ごみの片付けなどを徹底していることを説明した。

最後に、野村労務委員長が「安全管理体制について、理解を深め、より一層今後の取組を強化してほしい」と呼びかけた。

## 品質と工程管理学が 二条小改築の現場見学

札幌建協



札幌建設業協会は27日、札幌市が発注し、中央区で工事が進む二条小改築現場を見学した。都心特有の狭い敷地で煩雑な工程をこなす技術力に着目し、品質と工期を両立するテクニックを学んだ。

建築委員会(阿部芳昭委員長)と労務委員会(野村幹夫委員長)の共催。会員企業が施工する先進的な現場の建築技術や管理体制を参考にしよう

二条小は、南2条西15丁目の現地で、校舎と屋内運動場の改築を伊藤組土建・岩倉建設共同体が進めている。工期は2017年3月までの22カ月で、児童会館とまちづくりセンターも併設する。現場の川口哲司所長は「現在は校舎と運動場の

鉄骨建て方を200mmのクローラクレーンで進めている。当初は内部からつり上げる予定だったが、最終的なクレーン出口確保などのために変更した。今冬には既存校舎と新運動場をつなぐ渡り廊下を設置するので、工事の制約はさらに増すと工程管理の難しさを解説。

阿部委員長は「工程が複雑で参考になる。マンシヨンの杭打ちデータ改ざんが問題になっているが、会員は誠実に仕事をしている。そうでなければ地域住民の信頼は得られない」と現場の苦労を代弁した。

野村委員長は「都心部の工事なので、工程だけでなくあらゆる管理に細心の注意を払っていた」と感心していた。